

ねぶたの家 ワ・ラッセ

ワ・ラッセは2011年の1月にオープンした、ねぶた祭の歴史とアートを展示する、2階建て家族向けのミュージアムです。青森駅から徒歩で1分の場所に位置するワ・ラッセは、ねぶた祭について知りたいと思う誰に対しても、深い知識と内部の情報を提供し、一年中オープンしています。

大きい黒と赤の建物は、陸奥湾を背にして立っています。訪れた人が一度ミュージアムに入ると、伝統的な囃子の、太鼓や笛、シンバルからなる音楽とともにねぶた祭の日の夜の世界へと連れて行かれます。明るいディスプレイが祭の歴史を説明するために使われ、ねぶたの山車を設計して組み立てる背後の場面をみることができます。

祭が終わったあとは、組み立ての時の説明と、背景にある物語とともに、4~5台の受賞した山車が、ねぶたホールに展示されます。訪れた人々は、組み立てに至るまでの、木と針金だけの段階から細部を塗る工程まで、全ての複雑な部分を一緒にみることができます。

ねぶた師（ねぶた職人）によって作成された準備段階のスケッチも、展示されています。詳細な青写真というよりはシンプルなイメージの、このようなスケッチは、ねぶたの山車が一年を通して作られる工程を補助するものであり、職人の想像を現実のものにした、山車の芸術的なデザインの鍵となるものです。訪れた人々は、たとえそれが組み立てられる前であっても、2次元の描画から、山車の表情豊かなパワーを感じることができます。

このミュージアムでは、訪れた人々は稀に、山車を触ったり、和紙のような素材を使って見本の山車の一部を実際に自分たちの手で作ってみることができることもあります。ねぶた祭の背景をみるための講座やワークショップも行われています。訪れた人々は、太鼓や竹の笛、手持ちのシンバルで、どのように伝統的な祭の音楽を演奏するのかを学ぶことができたり、紙の金魚や、ミニチュアのねぶたの装飾の頂上の部分などを作ることができます。